



報道関係各位

## News release

問い合わせ先:

Fei Tierney  
+65 9800 9984  
Fei.tierney@marsh.com

広報担当  
pr.japan@marsh.com

### 市場変動の高まりを受け、アセットオーナーは現金、インフラ、新興国市場への配分を拡大 マーシュ調査

2026 年 10 月 8 日

プロフェッショナルサービスを提供するグローバル企業であるマーシュ（NYSE: MRSH）は本日、2026 年版 MARSH グローバル・アセットオーナー・バロメーターの調査結果を発表しました。本調査によると、運用資産総額 5 兆 7,600 億米ドルを有する世界の大手アセットオーナーの多くが、地政学的な不確実性、長引くインフレ、また、変化する投資機会を背景に、ポートフォリオの見直しを一層進めていることが明らかになりました。

Marsh Investments and Retirement のグローバル・チーフ・インベストメント・オフィサーである Niall O'Sullivan は次のように述べています。

「今年の調査は、AI インフラ、データセンター、半導体への設備投資が歴史的な水準で拡大する中で実施されました。こうした動きはすでに企業収益を押し上げています。資本は今、真の分散投資、インフレへの備え、そして柔軟性を求めて、大きく動いています」

本調査によると、調査対象となったアセットオーナーの約半数（48%）が過去 12 カ月で地域別の投資配分を見直しており、3 分の 1 以上がポートフォリオ全体のリスクを引き下げ（37%）、流動性または現金保有を増やしていると回答しました（37%）。

#### インフラ、インフレヘッジ、新興国市場が配分見通しを押し上げる

調査対象となったアセットオーナーの過半数（51%）は、今後 12 カ月でインフラへの配分を増やす意向を示しました。インフレ連動資産と新興国株式への関心も高まっており、それぞれ 41%と 47%の回答者がエクスポージャーを拡大する予定です。

資産クラス別の見通しにおいて、前年比で最も大きな変化が見られたのは現金でした。今後 1 年で現金配分を増やす予定と回答した割合は 38%で、2025 年の 9%から大きく上昇しています。

O'Sullivan は次のように述べています。

「こうした動きは、アセットオーナーが下方リスクへの備えと分散を強化する一方で、市場機会に対応できる柔軟性も確保しようとする、意図的なバーベル型のポジションを取っていることを示しています。それを実現するには、優れたアイデアだけでは不十分です。市場、リスク、流動性、そして長期リターン目標にまたがって、戦略を実行に移す統合的な助言とソリューションが求められます」

### **プライベートマーケットへの投資は広がる一方、投資判断はより選別的に**

調査対象 430 社のアセットオーナーの間では、プライベートマーケットへの投資はほぼ一般化しています。96%がプライベートマーケットに配分していると回答し、2025 年の 80%から上昇しました。一方で、プライベートデットおよびプライベートエクイティへの関心は、前年に比べてやや落ち着いています。今年、プライベートデットの保有を増やす予定としたアセットオーナーは 34%で、2025 年の 48%を下回りました。

プライベートマーケットへのアクセスは広がっている一方で、投資家の選別姿勢はより厳しくなっています。44%が、より厳選しながら投資ペースを維持していると回答しました。また、資本配分を左右する最も重要な要因として、回答者の 47% がバリュエーションを挙げています。

Marsh Investments and Retirement のオルタナティブ投資担当チーフ・インベストメント・オフィサーである Garvan McCarthy は次のように述べています。

「プライベートマーケットには以前よりアクセスしやすくなりましたが、良い成果を上げることはむしろ難しくなっています。バリュエーションは高止まりし、案件獲得競争は激しさを増しています。いま求められているのは、単に投下できる資本を持っていることではなく、高度な案件評価能力です。今後は、コミットメントのペースを適切に管理し、投資の規律を維持し、それぞれの投資が流動性やポートフォリオ全体のリスクにどう影響するかを見極められるアセットオーナーが、優位に立つと考えています」

### **運用モデル全体で AI 投資は加速する一方、ガバナンス整備は追いつかず**

業務全体で AI 活用の戦略的重要性が高まる中、その利用を巡るガバナンス整備は十分に追いついていません。回答者の約 3 人に 1 人（32%）は、成熟したガバナンスがないまま AI が部分的に活用されていると答えました。また 23% は、まだ方針策定と限定的な試行の段階にあるとしています。全社的な AI ポリシーを整備し、投資分野での具体的な活用例を定義しているのは 13%にとどまりました。

一方、AI 関連支出は急速に増えています。58%のアセットオーナーが、今後 12 カ月で AI ツールを設備投資の優先分野と位置付けており、データ管理（46%）やリスクシステム（33%）を上回りました。

### **短期の最大懸念は地政学リスク、長期ではテクノロジーが焦点に**

短期の意思決定を左右する要因と、長期のポートフォリオ設計を形作る要因は異なっています。今後 12 カ月で最も多く挙げられた短期的な重要課題は地政学リスクで、75%のアセットオーナーが重大であると回答しました。次いで、インフレ（73%）、AI またはテクノロジーのディスラプション（73%）が挙げられました。

一方で、5 年から 10 年の長期的展望では、回答者の 83%が、テクノロジー、自動化、そしてより広範なディスラプションが投資機会とリスクにとって重大であると答えました。これは、今回調査した構造的トレンドの中で最も高い水準です。

Marsh Investments and Retirement のインターナショナル・チーフ・インベストメント・オフィサーである Deborah Wardle は次のように述べています。

「短期的には、地政学リスクとインフレが意思決定を左右しています。一方で長期的には、テクノロジーとより広範なディスラプションが、リターンの源泉により大きな影響を及ぼすと見られています。レジリエンスを維持するには、すでにポートフォリオに表れているリスクを管理するとともに、より変化の激しい市場環境の中ではもはや通用しないかもしれない前提を見直すことも必要です」

レポート全文は下記 URL よりご覧ください。

<https://www.mercer.com/ja-jp/insights/investments/market-outlook-and-trends/global-asset-owner-barometer/>

#### 2026 年版グローバル・アセットオーナー・バロメーター について

2026 年版 MARSH グローバル・アセットオーナー・バロメーターは、運用資産総額 5 兆 7,600 億米ドル超を有する世界のアセットオーナー430 社の見解をまとめた調査です。回答対象は、ヨーロッパ・中東（42%）、アジア太平洋地域（28%）、北米（30%）地域の 25 か国に所在する年金基金、保険会社、政府系ファンド、大学基金、財団などの機関投資家に加え、ウェルスマネジャー、プライベートバンク、ファミリーオフィスなどの資産運用関連機関が含まれます。調査は CoreData Research により、2026 年 6 月から 7 月にかけてオンラインで実施されました。

注記： 調査分析の一部では、2026 年のデータを過去のラージ・アセットオーナー・バロメーター調査と比較しています。比較は、モメンタムや行動の明確な変化が見られる場合に行っており、厳密な同条件比較ではなく、方向性を示す参考情報として提示しています。

#### マーシュについて

マーシュ（NYSE: MRSH）は、リスク、再保険と資本戦略、人材戦略、資産運用、経営コンサルティングの領域におけるグローバルリーダーであり、世界 130 カ国にわたるクライアントにサービスを提供しています。年間売上高は 270 億米ドル超、95,000 名以上の従業員を擁し、未来への確かな視点を通じて、ビジネスを成功へと導くサポートをしています。詳細については [marsh.com](https://marsh.com) あるいは、[LinkedIn](#)、[X](#) をご覧ください。